

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503080		
法人名	社会福祉法人 常新会		
事業所名	グループホーム 喜望		
所在地	福山市御幸町下岩成 646-1		
自己評価作成日	令和4年2月25日	評価結果市町村受理日	令和4年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	令和4年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの為、外へ出掛ける事が出来ておらず、身体を動かす事が少ない為、よろこび独自の体操を作製しDVDにもやいて昼と夕食前に体操を行なっている。家事やアクトなど、個々に合った出来る事を行なってもらいながら、よろこびで過ごして頂いている。
また、誕生日や季節行事の時には、食事の内容を入居者に聞いたり、華やかにし、楽しんでもらったり喜んで頂けるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の優れている点は、理念「利用者の満足を第一とする。地域社会への奉仕と貢献」を掲げ、職員の基礎学習年間計画を作成・社会人のマナーから介護の知識までの学習教材を利用した研修・法人での研究発表会への参加など職員のスキルアップを目指して実践している。日常生活においては、テレビ体操・ラジオ体操・レクリエーション・季節ごとの壁紙作成などを通じて、利用者の心身の活性化を図る工夫をしている。また、お正月・誕生日・季節行事などには、利用者の食べたいものを聴き利用者と共におせち作り・鏡餅づくり・干し柿づくり・ケーキ作りなど、職員と利用者が一緒になって、食事が楽しめるように支援をしている。(電話にて聞き取り・書面調査)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を元に、部署の理念を作成し、入居者や家族の思いを傾聴し実践につなげている。	玄関・事務所・ホール内に理念を掲げ職員は共有している。カンファレンス・ケアプラン作成が利用者目線となるよう、実践や振り返りをしている。また毎月のミーティングでケアの確認をしたり、日々の会話でも検討をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、町内会の行事には参加出来ない。 また、事業所の祭りも行なえていない。	町内会に所属し、回覧板を通じて地域の情報を共有している。コロナ禍で行事には参加できなかったが、職員がオンラインで認知症カフェに参加したり、デイサービスの利用者から野菜の差し入れなどの交流があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、職場体験等の実習の受け入れを行なっていない。 また、地域の方々に向けての関りが行なえていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、コロナ禍の為、行なえていない。	コロナ禍で運営推進会議は行っていないが、2ヶ月に1度、会議中止の経緯について議事録としてまとめている。	議事録中止の経緯の記録とともに、事業所の2ヶ月ごとの状況についてのまとめも記録として残されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所で事故があった時の報告、事業所で困難事例があった時、コロナの状況等の情報を得ている。	管理者が窓口となり、困難事例や事故報告へのアドバイスを受けるなど、情報交換をしている。包括開催の連絡会への参加・市開催の介護職員技能等向上支援研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時に研修を行ったりして、ケアに取り組んでいる。 毎年6月と12月に勉強会やミーティングで話している。 身体拘束委員で、3ヵ月毎に委員会を開き、年に1～2回主任会議で報告を行なっている。	拘束の事例はない。利用者の話に耳を傾け、内容によっては家族に電話をしたり、利用者が思うよう行動してもらい見守りをしている。外に出たいときには職員が付き添い、一緒に行動をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外研修は、新型コロナウイルスの状況をみて判断し研修できる場合には行なっている。 また、ネットをつないだ研修も取り入れている。 事業所内の勉強会や動画を見ながら学び、虐待防止に対して、職員間で共通意識を持つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援や成年後見人制度について、勉強会等を行ない学ぶ機会を設けている。 現在、入居者1人が成年後見人制度を利用しており、後見人の方と連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は書類に添って説明し、改定があった時も、その都度説明し、納得頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理箱を設置し、管理者、職員間で共有し、対策を講じている。 直接、ご意見を下さる家族もあり、その都度、話し合い、対応している。	家族からは面会時や電話で、意見や要望を聴いている。連絡漏れの苦情があった事例ではすぐに話し合いを持ち、対応し記録に残している。利用者からは、日々要望を聴き入浴の時間帯・湯の温度・食事メニューなどに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットのミーティング等が出た意見、提案は、主任会議の中で検討している。	疑問に思った事・やってみたい事など、ミーティングや日々の業務で話し合っている。利用者の食事形態・レクレーション・体操・料理など職員の得意な分野を活かす取り組みもしている。必要時には職員個々と話す機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年職員の面談を行ない、業務に対する考え方、目標等を把握し、働きやすい職場環境を作りや、条件設備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修、能力開発プログラム、月1回の勉強会を実施している。 法人外の講習会等への参加も情報を提供し促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成大学の認知症カフェにオンラインにて参加し、情報交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人(又は家族)不安や要望等を聞き、安心して生活してもらえるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等を伺い、サービスの内容を丁寧に説明し、安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が、必要としているサービスを実施出来るよう、チーム内でしっかり検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の個性を尊重しながら、日々の生活をする中で、信頼し合える家族のような関係を築く事を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で、面会に制限があるが、タブレットによるリモート面会を行ない、安心につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、人に合う事や外出が出来ていないが、思い出の写真を見たりしながら話している。	コロナ禍のため家族とのタブレットでのリモート面会となり、馴染みの場所への訪問や地域行事への参加はできていない。家族との電話や手紙・絵手紙・年賀状のやりとりなど継続支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者全員で、体操を行ったり、アクトや会話の場を設け、楽しく過ごせるよう努めている。 入居者同士、助け合われている場面もよく見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方から情報を頂き、それを職員で共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の話や動きを記録したり、その場で話をする等して、職員、家族を含め相談し検討している。	居室や入浴・食事の時など、1対1になる時や日々の生活の中で、思いや要望を聴いている。「100歳までここに居たい。皆と一緒に元気で居たい。外に出かけたい」など傾聴し、連絡ノートで共有している。困難な場合は、表情などから思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの話や会話の内容から、情報を集め、生活歴など把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録して、主治医の話や意見を聞きながら職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に、カンファレンスを行ない、3ヵ月毎に、介護計画の見直しを行なっている。 家族とも相談して検討している。	利用者の現状や家族の意向をもとに担当者が作成し、ケアマネジャーが確認後ミーティングで検討している。医療面は主治医と連携を図っている。ケアプランの項目についても、毎日確認をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づきをライフチャートに記録して、職員間で共有し、計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の為、ユニット内での催しを行なっている。 祭りや運動会など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と主治医、連絡を取り説明、報告を行なっている。 急変時は、主治医、家族に連絡している。 また主治医に指示を仰ぎ、必要な時は主治医より家族に直接話をしてもらっている。	入居時に希望のかかりつけ医を決めている。 かかりつけ医の往診は月2回あり、緊急時や夜間も主治医の指示を受けて対応している。 必要時には訪問歯科の受診も受けられる。 薬の変更・状態の変化・他科受診が必要な時などにはその都度家族に連絡し、情報を共有し了承を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師へ入居者の様子を報告し、適切な対応、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報提供書を発行し、情報交換に努めます。 また、ご本人の状態などの確認に努め、退院時には、必要な事を質問し詳しく聞く様に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望を伺い、医師、職員は、家族が納得のいく最期を迎えられるよう努めている。	入居時に事業所でできること・できないことの説明をして、理解を得ている。その都度利用者の状態に応じて主治医・家族・事業所で情報を共有し、相談にて方針を決めている。支援が家族の意向に沿ったものとなるように、話し合いや確認を行いながら、また家族の精神面にも配慮しながら行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中、夜間それぞれの急変時マニュアルを職員全員で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した消防訓練や、災害訓練を、年に2回づつ行い、毎年5月と11月に勉強会や消防訓練や災害訓練を行なっている。 水と食料のストックを置いている。	夜間想定も含め、年2回の消防・災害訓練を行っている。水消火器を使用した訓練も行い気づきなどを話し合った。2～3日分の水・食料のストックを準備している。また水害時にトイレが使用できない時のために、ポータブルトイレも準備している。	訓練後の振り返りをした内容を記録に残し、今後の参考とされるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や思いを大切にし、声かけを行ない、環境やタイミング等を考慮しながら対応している。	個々の人格や思いを大切に声かけを行い、環境やタイミングを考慮しながら対応するよう勉強会などで話し合っている。日々の申し送りは見守りができるが少し離れた場所で行い、個人名が特定できないよう考慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者の意見を押し付けることのないよう、本人が思いを訴えやすい場面作りを心掛け、しっかり耳を傾け支援につなげていけるよう努めている。また、入居者の状態に合わせ、オープンクエストやクローズクエストを使い分けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ希望や思いを察知しながら生活を送って頂けるように支援し、出来ないところは、個々の力を借りながら介助を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな色や好み、季節に合った服を着て頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々が出来る事に参加して頂き、食事作りをしている。何が食べたいか希望を聞いたり、味はどうだったかなど話をする。出来る人には、下膳から片付けもしてもらっている。	季節に応じたネギ・ピーマン・ナス等の野菜を栽培し、誕生日会・バイキング・BBQなどのイベント時に天ぷらや煮物・サラダなど手作り料理を提供している。利用者の状態に応じて、食材の下ごしらえ(切る・炒める・つぶすなど)を行っている。その際に立って・座って・皆と一緒に・1人でしたい等、利用者個々に応じて環境を整えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、食事内容、水分量など、個々の記録に残し、状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、舌磨きや、口腔ケアの声掛けを行ない、必要な方には介助で行なっている。また、治療が必要な時には、歯科医院に往診に来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた布パンツ、パッドやオムツを使用している。 排泄パターンを考えて、トイレ誘導してパットの使用量の減少に努めている。	日中はほぼ全員が、トイレを使用している。夜間は状態に応じて対応をしているが、半数以上がトイレを使用している。日ごろの様子から、利用者と話して下着の種類を決めている。リハビリを兼ねて手引き歩行したり、手すりを持ち起立を促す等の機能維持を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を行ない、スムーズに排便できるよう工夫し、記録に残し予防に努めている。 排便が難しい方に対して、便座に座り足を台の上に乗せ前傾姿勢をとり、便がでやすくなるよう体勢など工夫するよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は本人の希望で時間を決めたり、体調に合わせて支援している。 寝たきりの方には清拭や洗髪が出来るように洗髪器で支援している。	希望を聴いて、時間を決めている。基本3日に1回の入浴日だが、希望によっては毎日入浴する利用者もいる。拒否のある利用者には担当者が代わったり、タイミングを見て声かけをするなど工夫をしている。ゆっくりしたい人には少しの間1人の時間を作ったり、他愛のない話をしたり、ゆずやミカン湯につかるなど楽しむ支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の身体状況を理解して、生活リズムに合わせて、昼寝などを取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤ファイルを使用して、薬の内容が分かるようにし、体調の変化がある時には、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、掃除、体操を、1日の流れとし、毎日行なっている。 カラオケやレクリエーションなど楽しみを支援できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出が出来ないので、室内でレクリエーションや壁飾りなど作ったり、イベント等行なっている。	コロナ禍で外出の機会は減ったが、状況を見ながら桜や紅葉鑑賞のためドライブに出かけることがあった。室内でのレクリエーション・壁飾り作り・イベントを企画したり、天気の良い日には、窓辺で日光浴を楽しむなど気分転換の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は金庫にて保管している。 コロナ禍の為、外出することがないので、駅弁大会や本人が食べたい物など職員が購入し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の希望に沿って、電話等の連絡をしている。 ipadを用いてオンライン面会を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花や、よるこびの壁飾り、思い出の写真などを作っている。	ホールには四季折々の作品や生花が活けてある。空調・日光・加湿器での湿度調整・テレビの音量なども配慮し、廊下の端には日光浴をしながら一人で外の景色を楽しめるスペースもある。全体的に整理整頓がされ、くつろげる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ前にソファを置いて、日光浴や外を見たりするスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の写真、贈り物など飾り、個々が過ごしやすいよう努めている。	自宅からベット・布団・タンス・机・椅子・テレビ・仏壇等を持参され、思い思いに配置されている。家族の写真・壁飾り・人形・好みの品々で居心地よくくつろげる環境となるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	昼食前と夕食前など、スマイル体操や個々に合った家事やアクトに努めています。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム喜望

目標達成計画

作成日: 令和 4 年 5 月 7 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4 (3)	議事録中止の経緯の記録と共に、事業所の2か月毎の状況についての、まとめも記録として残されていない。	GH(喜望)での、入居者の様子やケアの内容等を、地域の方に説明出来る様にまとめ、記録に残す。	GH(喜望)の活動状況を、地域住民等へ説明できる様にまとめる。	1年
2	35 (13)	訓練後の振り返りをした内容が記録に残されていない。	今後の振り返りができるように、内容を記録に残すことに努める。	災害対策の勉強会や訓練の時に質疑応答等があった内容を記録しておく。 参加出来なかった職員にも、ミーティングの時に、詳しく内容を伝える。	1年
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()